

新型コロナウイルス感染後の“ブレインフォグ”の抗加齢医学的検証  
 — 心の症状と機能年齢、酸化ストレス度に及ぼす影響について —

医療法人アエバ会 アエバ外科病院<sub>1</sub> 四ツ橋診療所<sub>2</sub>

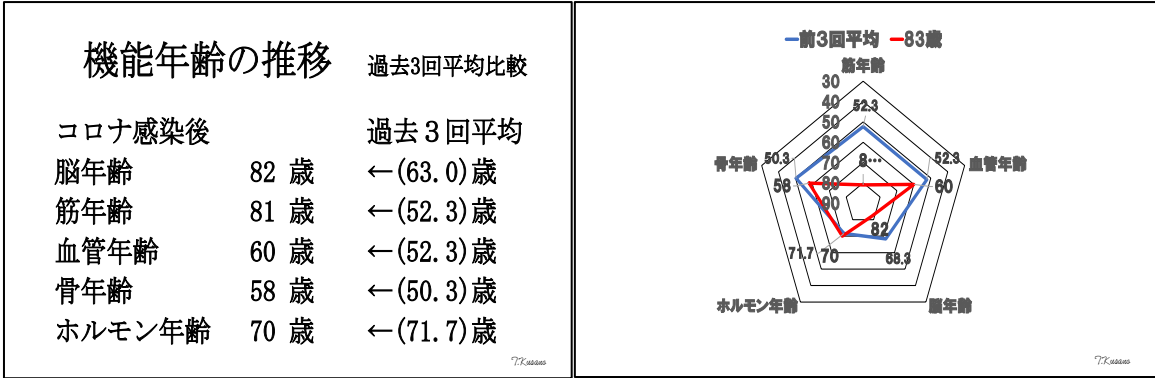
同志社大学大学院医学研究科アンエイジングセンター<sub>3</sub>

草野 孝文<sub>1</sub> 安井 潔<sub>2</sub> 米井嘉一<sub>3</sub>

【目的】今回、新型コロナウイルス感染後に“ブレインフォグ”を訴え、当院でアンチエイジングドックを複数回受診された症例を経験したので、抗加齢医学的検証を加え報告する。【方法】83歳女性、令和3年5月某日、発熱38度、咳嗽、全身倦怠感、頭重感で発症。翌日近医受診、PCR検査陽性、在宅療養（カロナール®500mg2錠内服5日間）、10日間の自宅隔離後解放された。その後、倦怠感、頭重感、抑うつ、不安感などの“ブレインフォグ”と思われる症状が持続した。当院のアンチエイジングドックに72歳、76歳、78歳時の過去3回の受診歴があり、今回は4回目でコロナ発症5ヶ月後であった。心の症状は全国QOL共通問診表を用いて調べ（各項目5-1点）、機能年齢（脳・血管・筋肉・骨・ホルモン年齢）、酸化ストレス度（尿中8-OHdG生成速度、血中過酸化脂質<LPO>）などについてコロナ感染前後で比較検討を行った。脳年齢測定にはウィスコンシンカードリーディングテスト〔慶應F-S version〕（WCST）を使用した。

【結果】コロナ感染後、だるい5（←3.7過去3回平均）、自信が失った5（←3.3）、健康感がない5（←4.3）、何か恐怖心を抱く4（←2.7）、理由なく不安4（←3）、憂うつ、役に立つ人間でない、くよくよする、意欲がわかない4（←3.3）と心の症状が増加した。脳年齢82（←63）歳、筋年齢81（←52.3）歳と著しく老化した。血管年齢60（←52.3）歳、骨年齢58（←50.3）歳、ホルモン年齢70（←71.7）歳であった。DHEA/コルチゾール比は4.59=680/14.8（←5.44=640/11.9）ng/ml/μg/dlと低下した。酸化ストレス度は8-OHdGを17.7（←2.8）ng/kg/と増加させた。LPOは3.4（←3.8）nmol/mlと変わらなかった。

【結語】新型コロナウイルス感染後のブレインフォグは心の症状が増加した病態であり、脳年齢、筋年齢を老化させ、また、酸化損傷・遺伝子損傷を増加させることが示唆された。

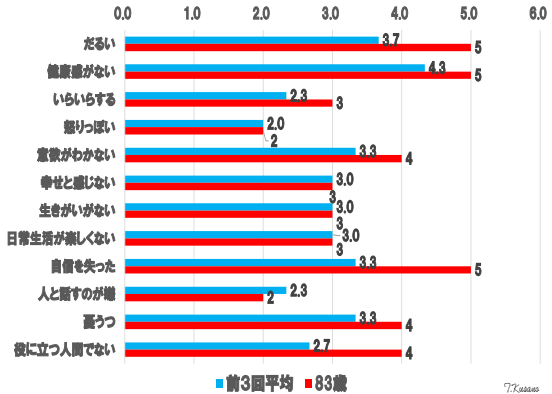


## 心の症状の推移

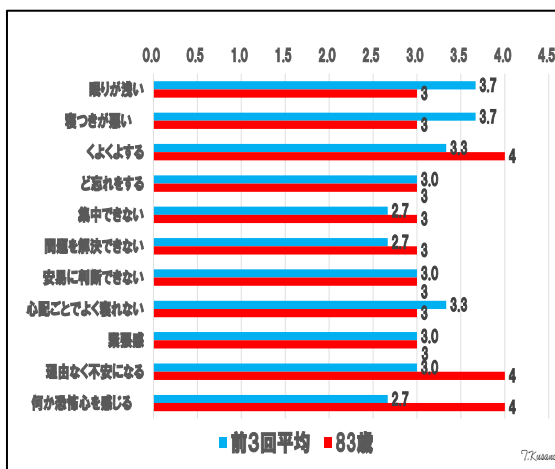
コロナ感染後	過去3回平均
だるい	5 ← (3.7)
自信が失った	5 ← (3.3)
健康感がない	5 ← (4.3)
何か恐怖心を抱く	4 ← (2.7)
理由なく不安	4 ← (3.0)
憂うつ	4 ← (3.3)
役に立つ人間でない	4 ← (3.3)
くよくよする	4 ← (3.3)
意欲がわからない	4 ← (3.3)

心の症状が増加した。

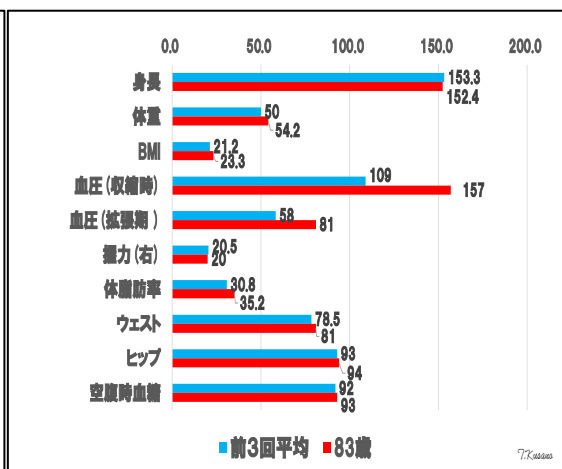
TKKasso



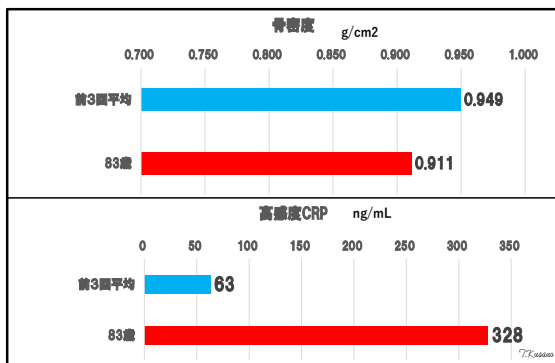
TKKasso



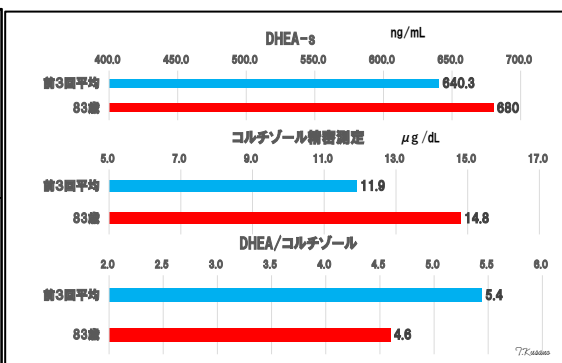
TKKasso



TKKasso



TKKasso



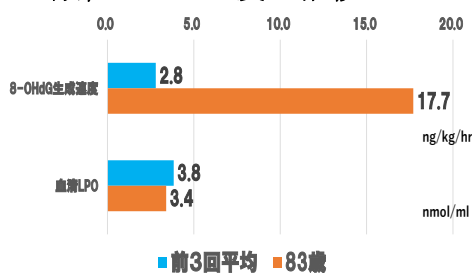
TKKasso

## 酸化ストレス度の推移

コロナ感染後 過去3回平均  
 尿中8-OHdG生成速度  
 17.7 ng/kg/hr ← (2.8)ng/kg/hr  
 と増加させた。  
 血清過酸化脂質は  
 3.4 nmol/ml ← (3.8)nmol/ml  
 と変わらなかった。

TKKasso

## 酸化ストレス度の推移



TKKasso